

2016年度 就職キャリア支援センター 自己点検・評価報告書

基準 1 理念・目的

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を 評価する項目です。		現状の説明	評価		発展計画		
					「効果が上がっている点」 に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
						当年度・次年度対応 F列にあれば記述	中長期的対応 F列にあれば記述
（１）付属機関等の理念・目的は適切に設定されているか							
a	◎高等教育機関として大学が追及すべき目的（建学の精神、教育理念、使命）を踏まえて、当該付属機関・委員会の理念・目的を設定していること。 【約500字】	本センターは、「『個』を強くする大学」として実学を重視する本学の教育理念に基づき、学生の就職支援及びキャリア形成支援を推進することにより、学生の職業観及び職業に関する知識・技能を涵養し、及び主体的に進路を選択できる能力の育成を図り、もって社会に有用な人材を輩出することを目的としている。 センターの目的である「主体的に進路選択ができる能力の育成を図る」と本学の教育理念である「『個』を強くする」ことは、「主体的」と「個を強くする」ことにおいて結びついているので、センターの目的は適切に設定されている。					
（２）付属機関等の理念・目的が、教職員及び学生に周知され社会に公表しているか							
a	◎公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること 【約150字】	センター運営委員会として、全学部及び大学院から委員が選出されているため、本センターの活動を全学的に周知できる体制にある。 本センター目的等は、大学のホームページを始めとし、大学案内などの刊行物によって周知している。					
（３）付属機関等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか							
a	●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】	就職キャリア支援センター運営委員会において毎年、自己点検・評価を実施しており、検証を行っている。また、センター活動報告を毎年発行し、活動内容を学内に公表することにより、理念・目標の検証を行っている。					

2016年度 就職キャリア支援センター 自己点検・評価報告書

基準 2 教育研究組織

点検・評価項目		現状の説明	評価		発展計画		
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。		C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
						当年度・次年度対応 F列にあれば記述	中長期的対応 F列にあれば記述
(1) 付属機関等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか							
a	①教育研究組織の設置状況は理念・目的に照らし、適切であるか。学術の進展や社会の要請と教育との適合性について配慮したものであるか。 ●教育研究組織は、当該大学の理念・目的を実現するためにふさわしいものであるか。 【約300字】	学生 学生の就職支援及びキャリア形成支援を推進することにより、学生 生の職業観及び職業に関する知識・技能を涵養し、主体的に進路を選択できる能力の育成を図り、社会に有用な人材を輩出することを目的として、学長の下に設置している。 本センターの運営に関して審議するため、運営委員会を設置している。運営委員会は、センター長1名、副センター長1名、センター推進員8名、各学部教授会から推薦された専任教員10名、大学院委員会から推薦された専任教員2名、法科大学院及び専門職大学院から2名、教務事務部長および就職キャリア支援部長の26名で構成されている。なお、各学部教授会から推薦された専任教員として、理工学部就職指導委員会、農学部就職支援委員会の各委員長が含まれている。 センターの管掌部署は、就職キャリア支援部であり、文系学部 就職キャリア支援事務室、理系学部には生田就職キャリア支援事務室が設置されている。2013年度から、文理融合型キャンパスである中野地区に中野教育研究支援事務室（就職キャリア支援担当）も設置されいている。就職支援とキャリア支援を体系的かつ一貫して行う環境が整備されている。 また、1年に4回程度開催される「センター運営委員会」では、学内の就職関連について議論、検討することはもとより、各種支援行事などを委員に周知することで、学部教授会を通じて学生に現在の就職状況等を伝えることが出来ている。					
(2) 付属機関等の教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか							
a	●教育研究組織の適切性を検証するにあたり、責任主体、・組織、権限、手続きを明確にしているか。 ●その検証プロセスを適切に機能させて、改善に結びつけているか。 【約500字】	就職キャリア支援センター規程において、センター推進員及びセンター運営委員の任期は2年（再任あり）となっている。各学部教授会に委員の推薦依頼をするなど、適切な手続きを経て委員が構成される仕組みとなっている。					

2016年度 就職キャリア支援センター 自己点検・評価報告書

基準 3 教員・教員組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を 評価する項目です。		現状の説明	評価		発展計画			
		C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画		
						当年度・次年度対応 F列にあれば記述	中長期的対応 F列にあれば記述	
（１）付属機関として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか								
	a	●＜教員像と教員組織の編制方針＞ 専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等、大学として求められる教員像を明らかにしたうえで、当該付属機関の理念・目的を実現するために、教員組織の編制方針を定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約４００字】	本センターは、「『個』を強くする大学」として実学を重視する本学の教育理念に基づき、学生の就職支援及びキャリア形成支援を推進することにより、学生の職業観及び職業に関する知識・技能を涵養し、及び主体的に進路を選択できる能力の育成を図り、もって社会に有用な人材を輩出することを目的としている。 センターの目的である「主体的に進路選択ができる能力の育成を図る」とことと本学の教育理念である「『個』を強くする」ことは、「主体的」と「個を強くする」ことにおいて結びついているので、センターの目的は適切に設定されている。					
（２）付属機関等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか								
教員の編制方針に沿った教員組織の整備								
	a	◎方針と教員組織の編制実態は整合性がとれているか。 【６００～８００字】	本センターの活動については、教務部委員会にて随時報告している。また、センター運営委員会として、全学部及び大学院から委員が選出されているため、本センターの活動を全学的に周知できる体制にある。					
（４）教員の資質の向上を図るための方策を講じているか								
教員の資質向上のための研修・諸活動（FD）の実施状況とその有効性								
	b	●教育研究、その他の諸活動（※）に関する教員の資質向上を図るための研修等を恒常的かつ適切に行っているか。 （※）社会貢献、管理業務などを含む『教員』の資質向上のための活動。『授業』の改善を意図した取組みについては、「基準４」（３）教育方法で評価します。 【６００～８００字】	就職キャリア支援事務部では、現状認識や社会的視野の拡大を図っている。毎年秋に「企業と大学との就職懇談会」を開催し、学長、学部長をはじめとした学部執行部など110名以上の教員が、各企業人事担当者に対して学部・研究科における教育内容や教育の現況を説明している。企業側からの意見聴取や学生の採用状況を伺うことにより、懇談を通じて本学就職概況を把握するとともに、企業や社会とのつながりを見直す機会としている。	10月26日に実施した企業と大学との就職懇談会では500名以上の企業関係者と110名以上の大学関係者が直接対面して情報交換を行い、企業の求めている学生像等を知ることが出来た。	センター長との名刺交換交換を希望する企業担当者の数が多く、名刺交換が行えなかった企業担当者が発生した。		名刺交換中の一人あたりの時間を厳密に定める等、希望者全員が名刺交換を行える体制を整える。	

2016年度 就職キャリア支援センター 自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 4. 成 果

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を 評価する項目です。		現状の説明 C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	評価		発展計画		
			効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
						当年度・次年度対応 F列にあれば記述	中長期的対応 F列にあれば記述
(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか							
b	●学位授与にあたって重要な科目（基礎的・専門的知識を総合的に活かして学習の最終成果とする科目、卒業論文や演習科目など）の実施状況。 ●学位授与率、修業年限内卒業率の状況。 ●卒業生の進路実績と教育目標（人材像）の整合性があるか。 ●学習成果の「見える化」（アンケート、ポートフォリオ等）に留意しているか。 【約800字】	＜卒業生の進路状況の把握＞ 過去3カ年（2014年度～2016年度）の「卒業生に対する就職率」の推移は、概ね70-80％程度であり、10％程度の学生が大学院に進学し、15％程度の学生がその他（自営、就業継続、資格試験準備、帰国した者、一時的な職に就く者、進路未提出者等）となっている。2016年度の学部卒業生数に対する就職者数と就職率は80.0％（2015年度79.5％）であった。 労働市場における社会環境には改善が見られ、学部卒業生の就職率は上昇した。最近3カ年の各学部別の卒業生・修了生に対する進路状況（就職、進学等）は、別表のとおりである。各学部では進路状況を把握することにより、人材養成の目的に沿った卒業生を育成できているか検証する一つ的手段として、データ提供等を行っている。 また、就職キャリアシステムで学生各人が在学中の経験等を入力しその内容を進路相談に活かしており、進路報告も当該システムにて行っている。 ＜大学院の修了生の進路状況の把握＞ 2017年3月31日段階において、博士前期課程学生就職率は74.9％であり、博士後期課程学生就職率は53.5％となっている。博士前期課程の主な進路として、博士後期課程進学のほか、民間企業、公務員、教員等が挙げられる。博士後期課程修了者の主な進路としては、任期付の教員・研究職や民間企業の高度な専門職などが挙げられる。					

2016年度 就職キャリア支援センター 自己点検・評価報告書

基準 6 学生支援

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を 評価する項目です。		現状の説明 C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	評価		発展計画		
			効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
						当年度・次年度対応 F列にあれば記述	中長期的対応 F列にあれば記述
(1) 学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう学生支援に関する方針を明確に定めているか							
a	●修学支援、進路支援に関する方針を、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえながら定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約200字】	「進路支援の方針」については、就職キャリア支援センター規程において「学生の職業観及び職業に関する知識・技能を涵養し、主体的に進路を選択できる能力の育成を図る」ことを明示し、この方針をもとに課題を検証し、次年度の具体的な計画も示している。さらに「2016年度就職キャリア支援センター報告書」において、就職キャリア支援の概念図を示し、「入口から出口まで」の一貫した支援体制を分かりやすく公表している。					
b	●方針に沿って、修学支援のための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しているか。 ○留年者、休退学者の状況把握と対応 ○障がいのある学生に対する対応 ○外国人留学生に対する対応 ○学生支援の適切性の確認 【約400字～800字程度】	＜学生の生活実態の把握と学生支援活動の適切性の検証＞ 就職キャリア支援センターでは、進路報告については、内定時に「就職活動報告書」の提出及び大学ホームページでの「進路入力」の実施、卒業時の進路状況報告書の提出によって進路実態を把握している。また、支援行事の運営について、行事に参加した学生にアンケートを行うことや就職活動報告書のアンケート欄の分析により、学生のニーズを常時反映させ、タイムリーな運営を行っている。現況の分析、検証を行いその結果から、留年者への個別情報配信・障がい学生への状況別対応・留学生に特化した行事の実施などを実現させ、PDCAサイクルを機能させている。なお、障がいのある学生、留学生に対しては、担当者を設け対応している。					
(4) 学生の進路支援は適切に行われているか							
a	◎学生の進路選択に関わるガイダンスを実施するほか、キャリアセンター等の設置、キャリア形成支援教育の実施等、組織的・体系的な指導・助言に必要な体制を整備していること。 【約400字～800字】	就職キャリア支援センターを設置し、事務部門として駿河台・和泉キャンパスは就職キャリア支援事務室、生田キャンパスでは生田就職キャリア支援事務室、中野キャンパスでは中野教育研究支援事務室（就職担当）が、就職支援とキャリア形成支援を体系的かつ一貫して行う環境を整備している。 本センターの活動方針として、キャリア教育の定義を明確化するためにキャリア支援について正課・正課外科目と各種行事等のそれぞれの支援プログラムが有機的に行われるよう計画を立てること、共感力・自己表現力の養成により進路選択後のミスマッチを軽減し、納得のいく進路選択の実現を支援すること、就職以外の進路選択について適切な指導や情報提供を行うために学内での連携強化を図ることを掲げている。					

2016年度 就職キャリア支援センター 自己点検・評価報告書

基準 6 学生支援

点検・評価項目		現状の説明		評価		発展計画		
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。		C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画		
						当年度・次年度対応 F列にあれば記述	中長期的対応 F列にあれば記述	
	<就職支援・指導全般>	就職支援・指導については、学生の授業に配慮しつつ「学生が納得した進路選択ができる」ために、「フェイス・トゥ・フェイス」を基本方針とした相談態勢を採り、就職活動で直面している問題や進路選択全般について、2016年度は年間24,971件の面談に応じている。理系学部では学校推薦制度があり、理工学部では就職指導委員会、農学部では就職支援委員会を設置している。 センターには資料室を設け各種資料を閲覧に供している。過去8カ年にわたる卒業生が採用選考の内容を詳細に記録した「就職活動報告書」は本学独自の資料であり、「就職活動報告書アンケート」から最も多くの学生が利用した資料として高い評価を得ている。 2016年度の就職キャリア支援行事は、カレンダーに沿って実施した。3年生は6月にプレ就職・進路ガイダンスからはじまり、就職・進路ガイダンスは10月初めから合計20回開催した。企業における採用活動は経団連の倫理憲章に基づき説明会開始は変わらず3月1日以降、選考開始が2カ月早まり6月1日以降となった。説明会解禁から選考開始までの期間が短くなったことで、学生の活動時期が短期化し、3月下旬から4月上旬にかけてエントリーシートの締切が集中、添削希望の学生が殺到したが、全職員あがての相談体制で学生のサポートを行った。選考のピークを越えた秋以降は就職活動を継続する学生に対して、学内セミナー、学内企業選考会等の他、求人情報紹介セミナー、社長スカウト会を実施するなど、就職支援を卒業後も継続的に支援した。	特に生田キャンパスにおける就職支援については、理工学部就職指導委員会、農学部就職支援委員会、生田就職キャリア支援事務室が連携を強化し、「社会で活躍できる人材」として学生をどのように育成していくかを意識共有しながら、教職一体の支援を行っている。	2016年度までは就職ガイダンスを始めとする各種支援行事を5時限目終了後の18：00以降に実施していたが、2017年度からの新時間割導入に伴い、5時限目終了が18：50になる。これ以降に行事を実施しても学生が参加しづらい時間帯になるため改善が必要である。	理工学部就職指導委員会、農学部就職支援委員会、生田就職キャリア支援事務室が毎年度、「生田キャンパスにおける就職キャリア支援基本方針」を作成し、就職キャリア支援センター運営委員会で明示、共有する。 また、支援行事については各委員会で基本方針に基づいた行事計画を審議し、学生にとって効果的かつ対外的にもわかり易い行事体系の実現を目指している。	2017年度からは昼休みの時間帯及び5時限目の授業時間帯を活用することで、全学生が行事に参加しやすい環境を整える。		
	<学部間共通総合講座、キャリア手帳>	キャリア形成支援は、キャリア形成関係の授業科目とインターンシップを中心に、学生が自ら進路選択できる能力を得られるよう初年次から段階的に指導している。 キャリア形成支援科目については、各業界の第一線で活躍している社会人を講師として招聘し、学生の職業観の醸成および主体的な進路選択能力の育成を目的として学部間共通総合講座に駿河台キャンパスで「キャリア講座Ⅰ」、和泉キャンパスで「キャリア講座Ⅱ」、生田キャンパスで「キャリア形成支援講座Ⅰ・Ⅱ」、中野キャンパスで「業界理解ワークショップ型キャリア支援講座」「産学連携型キャリア講座」の科目を開講するなど、キャリア・デザイン関連講座（学部間共通総合講座）の企画・運営を行っている。 2016年度は「業界理解ワークショップ型キャリア支援講座」など関連科目を上記の6講座を開講し、その履修者数は、4地区合計で860名（2015年度は約1,002名）を数えた。これらのキャリア形成科目は、学部の枠を超えて履修が可能であり、就職キャリア支援センター等が授業計画、成績評価を行っている。 また、学部2年生向けに、充実した学生生活を送り、就職活動をする基礎にもなるよう、キャリア手帳を配布した。		学部間共通総合講座内でインターンシップ関連の内容を含めた講座を開催することで連携は一部できているものの、学内で開催する就職支援行事・キャリア形成支援行事との連携が今後の課題である。			学部間共通総合講座履修者に向けて、各種支援行事を告知する等、正課授業と支援行事との連携を深めていくことでさらなる就職キャリア形成支援を充実させていく。	

2016年度 就職キャリア支援センター 自己点検・評価報告書

基準 6 学生支援

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を 評価する項目です。		現状の説明	評価		発展計画			
					「効果が上がっている点」 に対する発展計画 E 列における伸張項目		「改善を要する点」に対する発展計画	
							当年度・次年度対応 F 列にあれば記述	中長期的対応 F 列にあれば記述
	＜インターンシップ＞	インターンシップについては、就職キャリアセンターで3つの基本理念を定めている。第1に就業体験を通じた学習目的の明確化と学習意欲の喚起、第2に高い就業意識を持った職業人や創造的人材の育成、第3に産業界や地域社会との交流と相互理解である。この基本理念の下、本学では「全学版インターンシップ」、「学部実施型インターンシップ」、「自己開拓型インターンシップ」の3つの制度で実施している。 「全学版インターンシップ」は、所属する学部・学科関係なく参加でき、センターにて受入企業・団体の開拓、学生のマッチング等を行っている。インターンシップを希望する学生の増加に応えるべく、受け入れ企業・団体の開拓、事前・事後教育の強化、マッチング率の向上、受入企業・団体との連携強化等の学生派遣体制の強化を図った。マッチング会の初開催等の諸施策により2016年度は応募者1,012名に対して、受入企業・団体数238、派遣者466名となった。今後もインターンシップ希望者の増加が見込まれることから計画的な実習の実施が必要になっている。「学部実施型インターンシップ」は、商学部、政治経済学部、文学部、理工学部、農学部、経営学部、情報コミュニケーション学部、国際日本学部において、インターンシップ（実習）を学則別表1に記載し、卒業に必要な単位として認定を行っている。	学生のインターンシップへの興味が増したことに伴い、全学版インターンシップへの参加希望学生が年々増加しており、2016年度はガイダンス参加者が2,839名となった。	全学版インターンシップについて、ガイダンス参加者は増加したものの、実際に実習に参加した学生は減少した。これは全学版インターンシップ参加の絶対条件である事前研修に日程の制約上参加できなかったことによることが大きな原因の一つとなった。		事前研修をWEB受講できる環境を整え、いつでも・どこでも研修を受講できるようにする。		
	＜外国人留学生や大学院学生への支援＞	＜外国人留学生や大学院学生への支援＞ 2016年5月1日現在で、学部生934人・大学院生429人の留学生が在籍している。今後ますます留学生の増加が見込まれることから、「出口」である就職支援が不可欠となる。本学の就職支援は学外からも高い評価を受けているが、留学生に対しては一般学生と同じ就職活動支援だけでなく、留学生に特化したプログラムを展開していく。2016年度に実施した就職支援行事は以下のとおりである。 ①プレ就職・進路ガイダンス、②就職・進路ガイダンス、③エントリーシート対策講座、④筆記試験対策講座、⑤就職活動体験報告会、⑥学内OB・OG懇談会、⑦BJTビジネス日本語能力テスト（受験料全額補助）、⑧ビジネス日本語講座、⑨就職活動直前対策セミナー、⑩イングリッシュトラック学生向けガイダンス 日本企業に就職を希望する留学生と留学生を採用する企業の増加に対応した支援行事を充実し、留学生の就職機会に繋げている。	留学生向けの支援行事への参加者数が延べで600名を超えるなど、多くの留学生が参加しており、留学生のニーズをとらえた支援が行われている。				国際連携部や各学部・大学院とも連携し、それぞれが実施している就職支援行事の重複などを省き、より留学生のニーズにあった支援を計画・実施していく。	
	＜大学院生への支援＞	特に、大学院学生（博士前期課程）・専門職大学院修了生に対する支援強化として、次の行事を開催した。①研究科就職ダイダンス（商学研究科、先端数理科学研究科）、②研究科別個別相談会[グループ相談会]（法務研究科）、③法科大学院修了生向け就職ガイダンス、グループワーク講座、④会計専門職研究科就職キャリアガイダンスまた、理系では学部・大学院の分け隔てなく就職活動支援が行われている。なお、上記の他、企業開拓・来訪企業への院生採用の依頼と情報提供等も実施し、採用拡大につなげている。						

2016年度 就職キャリア支援センター 自己点検・評価報告書

基準 6 学生支援

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を 評価する項目です。		現状の説明	評価		発展計画	
					「改善を要する点」に対する発展計画	
			効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 E列における伸張項目	当年度・次年度対応 F列にあれば記述
	＜卒業後の進路先データの把握，就職統計データの整備とデータによる検証システム＞ ＜卒業後の進路先データの把握，就職統計データの整備とデータによる検証システム＞ 2016年度の学部卒業生の進路先データ把握率は，99.2％（前年度98.7％）であった。進路先の把握については，ガイダンスやOh-o！Meijiシステムを通じて進路登録WE Bサイト入力を依頼し，また学位記受領書の進路報告欄から把握している。その他，文系学部に対しては10月にゼミナールごとの進路状況調査，各学部卒業ガイダンス時における進路状況調査等を行った。理系学部に対しては，春学期に研究室ごとに進路状況調査を行った。内定状況調査の結果は，他大学やマスコミ等の情報などと比較・検討され，その後の就職支援行事の実施時期や内容に活用した。就職統計データについては，毎年，学生の進路及び企業の求人状況等をまとめた統計資料として「就職概況」を発行し，その中で当該年度の進路状況等の分析を行っている。学内では，他の情報などと総合的に判断し，次年度の支援活動の企画にも役立てている。学外には，ホームページに学部，研究科ごとの業種別就職状況や主な就職先などを掲載し，一般に広く公開している。その他，毎年全都道府県で開催する「明治大学地区父母会」にて「就職概況」を配布し，地方在住の父母に対して就職状況について説明している。本学への進学を希望する学生にも「2017年度入試データブック」で公表している。その他の統計データとして，文系学部では，例年6月に在学生5％を抽出し内定状況調査を行っている。					

2016年度 就職キャリア支援センター 自己点検・評価報告書

基準 10 内部質保証

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を 評価する項目です。		現状の説明 C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	評価		発展計画		
			効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述	
(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか							
	a	◎自己点検・評価を定期的に実施し、公表 していること 【約400字】	評価に関する委員会は、就職キャリア支援センター運営委員会（セ ンター長、副センター長他運営委員会メンバー 合計26名）が、就職 キャリア支援センター自己点検・評価委員会を兼務している。2016 年度は4回開催した。				
(2) 内部質保証に関するシステムを整備しているか							
	a	●内部質保証の方針と手続を明確にしてい ること。 ●内部質保証をつかさどる諸組織（評価結 果を改善）を整備していること ●自己点検・評価の結果が改革・改善につ ながっていること ●学外者の意見を取り入れていること ●文部科学省や認証評価機関からの指摘事 項に対応していること 【800字～1000字程度】	就職キャリアセンターに関する自己点検・評価報告書については 就職キャリア支援センター運営委員会で検討し（2016年度は5月12 日）、インターンシップ制度の充実や留学生支援の強化等の課題に ついて、次年度の年度計画書に反映させている。自己点検・評価の 項目と、年度計画書の項目が統一されているため、点検・評価した 結果を、翌年の計画に反映できる仕組みとなっている。				
(3) 内部質保証システムを適切に機能させているか							
	a	●PDCAサイクルを回すための、Che ck（点検・評価）およびAction （改善）の具体的内容・工夫 ＜参考：以下の事項に関して、関連するも のについて記述する＞ ①組織・個人レベルでの自己点検・評価活 動の充実 ②教育研究活動のデータベース化の推進 ③学外者の意見の反映など	①組織レベル・個人レベルでの自己点検・評価活動の充実 従来から、就職キャリア支援センターとして、和泉、生田、中野 キャンパスを含めて、2週間に一度、嘱託職員、派遣職員、特別嘱託 職員を含めた事務連絡会を行い、情報の共有を図っており、支援活 動の強化につなげている。 また個人レベルでは大学職業指導研究会や全国私立大学就職指導研 究会への参加を始め、各人が第二種研修制度を活用したり、外部で の講演会や情報交換の場に業務として参加している。 さらには、通常時には担当業務に関わる見直し、改善を行い、正確 かつ簡潔、迅速に業務処理が行われるよう常にブラッシュアップし ている。 各自には「じこてん」ニュースレターを配布し、点検・評価のスキ ルアップに努めている。 ②教育研究活動のデータ・ベース化の推進 毎年、「就職キャリア支援センター報告書」を発行し、前年度にお けるさまざまな就職活動の内容と結果を公表している。また、同時 に「就職概況」を発行し、前年度の就職状況を学内外に公表してい る。就職キャリア支援部内には過去10年以上の「就職概況」が閲覧 可能となっている。 ③学外者の意見の反映 センター独自での、自己点検・評価に対する学外者による検証シス テムはないが、全学的な委員会である評価委員会から、学外者から の意見を受けることとなっている。 ④文部科学省及び認証評価機関等からの指摘事項の対応 本学に対する文部科学省からの指摘事項及び大学基準協会からの勧 告があった場合は、自己点検・評価全学委員会を対外的な窓口とし て、学部等自己点検・評価委員会に対応することとなっている。				